

**平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果**  
**国立大学法人小樽商科大学**

**1 全体評価**

小樽商科大学は、国際的視野と専門知識及び豊かな教養と倫理観を備えた社会の指導的役割を果たす品格ある人材を育成するため、広い視野で社会の諸課題を発見し考察し解決策を構想する力の涵養を目指す実学教育を展開している。第2期中期目標期間においては、自立した高い研究能力を有する人材とともに、高度な専門的知識を有する職業人を育成すること等を目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、これまで小規模教室を中心としていたアクティブ・ラーニングの次世代型の手法として「コミュニケーション・ラーニング」を大規模教室で展開するとともに、「グローバルマネジメント副専攻プログラム」における海外留学を支援するための奨励金を創設するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

**大学の機能強化に向けた取組の状況について**

グローバルな視点から地域経済の発展に貢献するリーダーを育成する「グローバルマネジメント副専攻プログラム」や、自治体や地域産業界の人材を講師とする「地域学」を開講し、教育の充実に取り組んでいるほか、海外協定校と連携した教育環境を構築するための海外大学との協議や、ギャップイヤー制度の設計に向けた検討を進めるなど「グローバル人材」の育成に向けた取組を行っている。また、「グローバル戦略推進センター」を設置し、従来は点在していた、実践的な教育方法の開発、学生国際交流及び産学官連携に係る業務を一体的に推進できる教育研究支援体制を整えている。

## 2 項目別評価

### <評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 事務組織改革による企画立案と予算編成の一体的な推進

企画業務を担当する部署に予算業務を担当する係を組み入れることにより、将来構想の立案や大学改革の推進に関わる業務と概算要求等の予算業務について一体的に検討し取り組む体制を整えた結果、第3期中期目標・中期計画の策定や平成28年度予算の概算要求が円滑に実施されるなどの成果を挙げている。

#### ○ グローカル戦略推進センターの設置による教育研究支援機能の強化

教育研究支援の機能を強化するため、実践的な教育方法の開発、学生国際交流及び産学官連携について、従来は学内に点在していた業務を集約して「グローバル戦略推進センター」を新たに設置しており、これらの業務を全学的なマネジメントの下、一体的に推進できる体制を整えている。

## （2）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 寄附金の獲得増に向けた積極的な広報活動の展開

「教育振興基金」について、趣意書のリーフレットの配付や広報誌「学園だより」への基金の執行状況の掲載等を通じて広報活動に注力するとともに、特に卒業生に向けた広報活動として、同窓会が卒業生に発送する広報誌「緑丘」にリーフレットを同封し、より積極的なPRを行っている。これらの取組の結果、寄附額は前年度に比べて20%増加している。

## （3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

### 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

#### ○ 新たな中期目標期間に向けた大学ビジョンの発信

新たな中期目標期間を迎えるにあたり、大学のビジョンを学内外の幅広いステークホルダーと共有するため、第3期中期目標・中期計画との関連性を含めて記載したパンフレット「新しいビジョン2016-2021小樽商科大学が輝き続けるために」を作成・配布し、大学が掲げる戦略を発信している。

#### ○ 戦略的・効果的な広報活動の展開

卒業生や同窓会役員と学長との対談記事をオープンキャンパスの開催時期と入学試験の実施時期に合わせて全道版の新聞に一面広告として掲載し、アクティブ・ラーニングや「グローバルマネジメント副専攻プログラム」、海外留学奨励金等、大学の特徴的な取組を幅広く広報した結果、オープンキャンパス参加者数が過去最高の1,898名（前年比338名増）となっている。また、入学志願者についても、前年より152名多い1,632名となるなど戦略的な広報活動の成果が表れている。

#### (4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②環境管理、③安全管理、④法令遵守、⑤大学支援者等との連携強化

##### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

##### ○ 省エネルギーの取組による二酸化炭素排出量の削減

平成27年度に実施した施設整備にあわせて、空調機の運転マニュアルについて暖房運転の強制停止時刻を早めるなど、無駄のない暖房運転を行うための更新を実施するとともに、継続的な省エネルギー活動を推進した結果、平成27年度エネルギー使用量は、29,004GJ（平成20年度比22.9%減少）、二酸化炭素排出量は1,911t（平成20年度比18.8%減少）となっており、中期計画に掲げている二酸化炭素排出量を5%削減するという目標を達成している。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

---

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ コミュニケーション・ラーニングの実践

次世代型のアクティブ・ラーニング手法である「コミュニケーション・ラーニング」を実践するため、仮想的コミュニティをリアルタイムで形成することのできるアプリケーションを学生の所有するICT機器にインストールし活用することで、多方向のコミュニケーション及びその内容の視覚化による協調学修を実現している。また、当該アプリケーションの活用により授業内での速やかな意見集計が可能となり、これまで小規模教室を中心としていたアクティブ・ラーニングの大規模教室への展開が推進されている。

### ○ 寄附金を活用した教育プログラムの充実

「グローバルマネジメント副専攻プログラム」における海外留学を支援するため、卒業生からの寄附により将来10年間にわたって、毎年60名の学生に授業料・渡航費・宿泊費の支援を行う給付型の奨励金を創設している。この奨励金の創設により、経済的理由により留学費用の負担が困難な学生についても留学が実現するなど、環境が整えられているほか、プログラムへの参加を契機として長期の交換留学へ行く学生が増加するなど留学に対する意欲の向上が図られている。